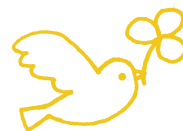


川柳を文化として、鈴鹿に広めていきたい！

あおと たかこ 青砥 たかこ さん

鈴鹿川柳会 会長



1950年 誕生
1971年 結婚
1975年 自営業を始める
1993年 川柳を始める
2005年 鈴鹿川柳会会長

🌟 きっかけとこれまでの道のりは？ 🌟

ちょっとした文章が書けるようになればいいなという気持ちとから、川柳を始めたのが1993年です。50代のころ、指導していただいた方が亡くなり、会長がいない状態となりました。そのころは私が一番手で、大体70代ぐらいの方が会長になるので、「誰がなるのだろう？」程度に思っていました。しかし、候補の男性ができないとなって、周りから「やったら？」と言われ、気は乗らなかったのですが、夫に「人にやってほしいと言われるなら、やったら。」と後押しされ、やることに。それからずっと会長です。そして、私が17年間会長をやれているのは、補佐の吉崎柳歩さんの力強いバックアップがあるからです。

🌟 私のポリシーは？ 🌟

会において人の和を大事にしています。会に来ることで気分が晴れるところにしたい。前任の会長からは、「自分の句がボロボロに言われることがあっても、泣いて帰ることがないよう、楽しんでもらえるように努めるのが会長。」と申

し送りされました。

昔は会長が男性がほとんどでしたが、私が会長になってから三重県の半分ほどが女性会長になりました。全国でも17年間同じ会長が務めている会はほとんどないので、それは私の誇りです。



🌟 やりがい、反対に苦労はありますか？ 🌟

新しい人が入って、ぐんぐんうまくなっていき、選者になったりすると嬉しいです。後輩が育っていくことはやりがいです。川柳は、自分の気持ちなどを述べてみんなで共感しあったりするものです。先生はいないので、年長者が助言をしたりします。「これはこう」という決まりはないので、自由に思いを込めることができます。

会員は30人ほどいますが、全国に詩友ができるのも良いところです。

🌟 これからの目標や夢を教えてください。 🌟

若い人を増やしていくことは目標です。けれど、川柳は50代、60代になって人生のいろいろな経験を積むことによって、深くなります。ジュニアの部で上手な子どもさんもいますが、大人になっていくと時間がなくなり、辞めてしまうことが多いです。親や祖父母と一緒にやっていると、続けられるので、そういう環境をつくっていきたいです。

🌟 最後に伝えたいことをどうぞ… 🌟

川柳は元々男性だけのものでしたが、女性が入るようになってふわっと柔らかくなります。だんだんと「男性しかできないこと」は少なくなってきています。また、川柳は良い意味で、プライドを捨てることが必要で、過去の肩書きなどに捉われず、男性も女性も平等です。

女性は好きなことをして、社会にもまれていくことで、勉強になり強くなっていきます。人に関わるのが大切です。川柳を通して、本当の自分をだしつつ、いろいろな人と関わってみませんか。